

---

---

---

---

# 原発事故からの復興における 富岡町民の生活と将来に関する意識調査 調査報告書 【概要版】

---

---

---

---

【問い合わせ先】  
〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300 番地  
高崎経済大学 教授 佐藤彰彦  
TEL 027-344-6244

# 1

## 調査の概要

東日本大震災ならびに福島第一原発事故から12年が経過しました。2023年春に富岡町夜ノ森地区など帰還困難区域の解除が行われましたが、まだ避難指示が出ている区域も存在します。また、2017年の避難指示解除に伴って富岡町内に帰還した町民もいますが、他方で現在も避難を継続する多くの町民がいます。加えて、避難指示解除後に新たに富岡町に移り住む人もいます。

こうした状況を踏まえ、このたび町内外に暮らす町民の方々を対象に意識調査を実施しました。調査にご協力いただいた方々には改めてお礼申し上げます。

調査は、2022年11月1日時点で富岡町に住民票がある18歳以上の方を対象に、全体の約半数にあたる5229名を無作為に選ばせていただきました。その結果、1401名の方より回答をいただきました。有効回収率は26.8%でした。この報告書では、分析結果から明らかになったことの概要をお伝えします。グラフに示した( )の数字は回答数を示しています。

図1-1は回答者の状況を示しています。すでに町内に戻った方が10.1%、現在も避難している方が83.6%、震災後に富岡町に移住した方が6.3%でした。図1-2、図1-3は回答者の状況別にみた性別、年齢を示しています。

3ページから10ページまで、テーマごとに調査結果を示しています。その際、テーマの右側にはどなたを対象とした調査結果なのかを示しています(黄色のマークがあるものが対象者です)。

図 1-1 対象者の状況 (1401)

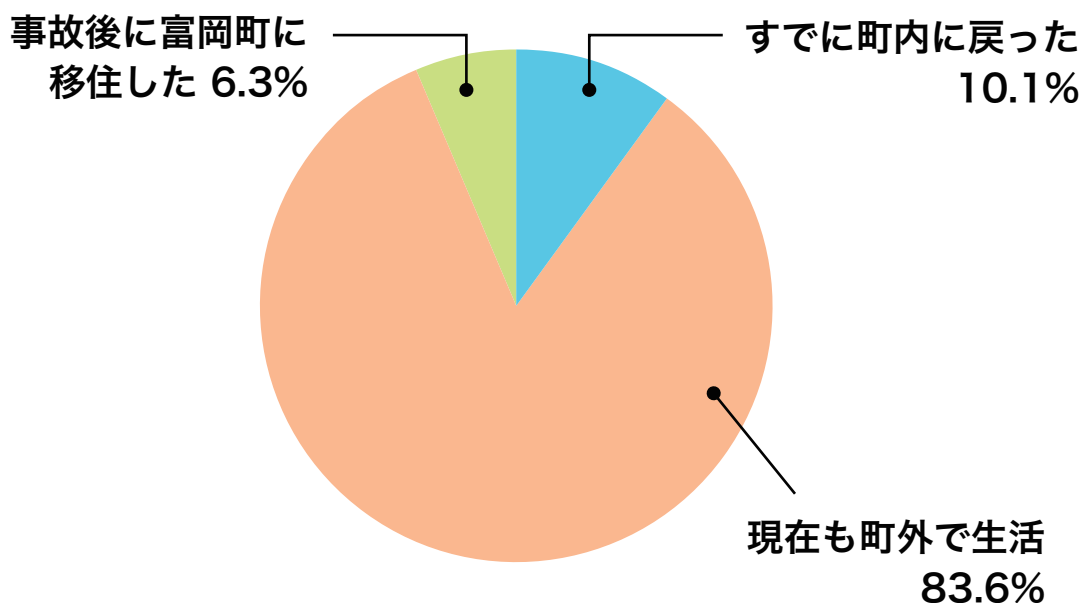


図 1-2 対象者の状況別に見た性別

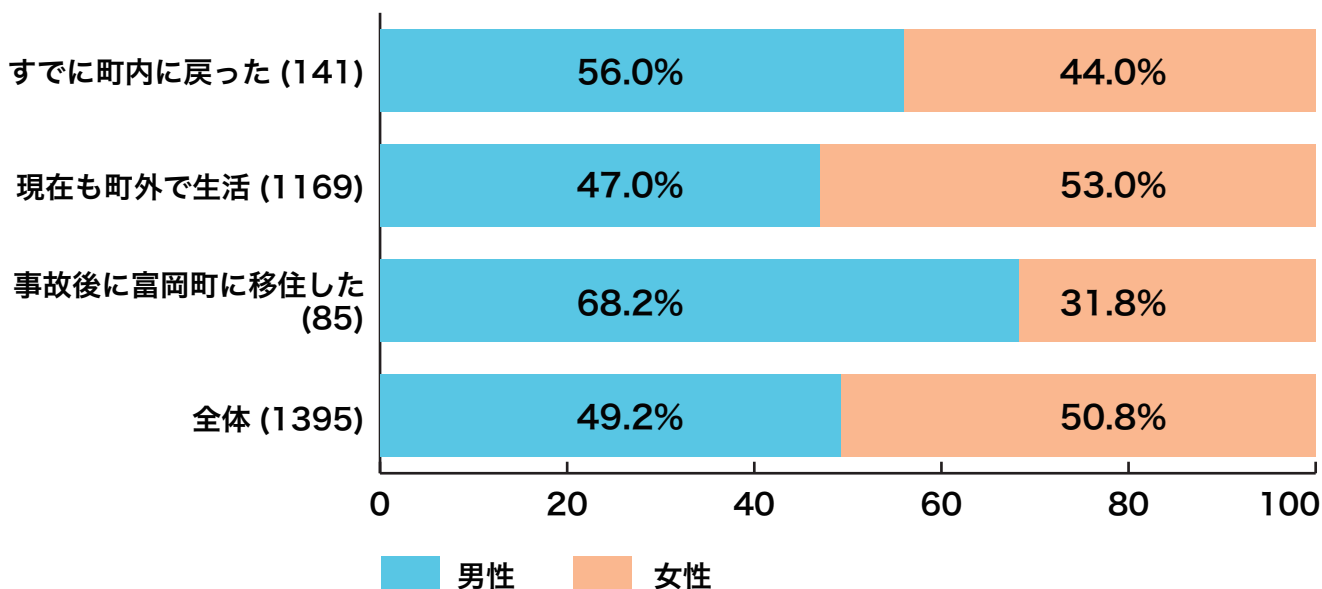
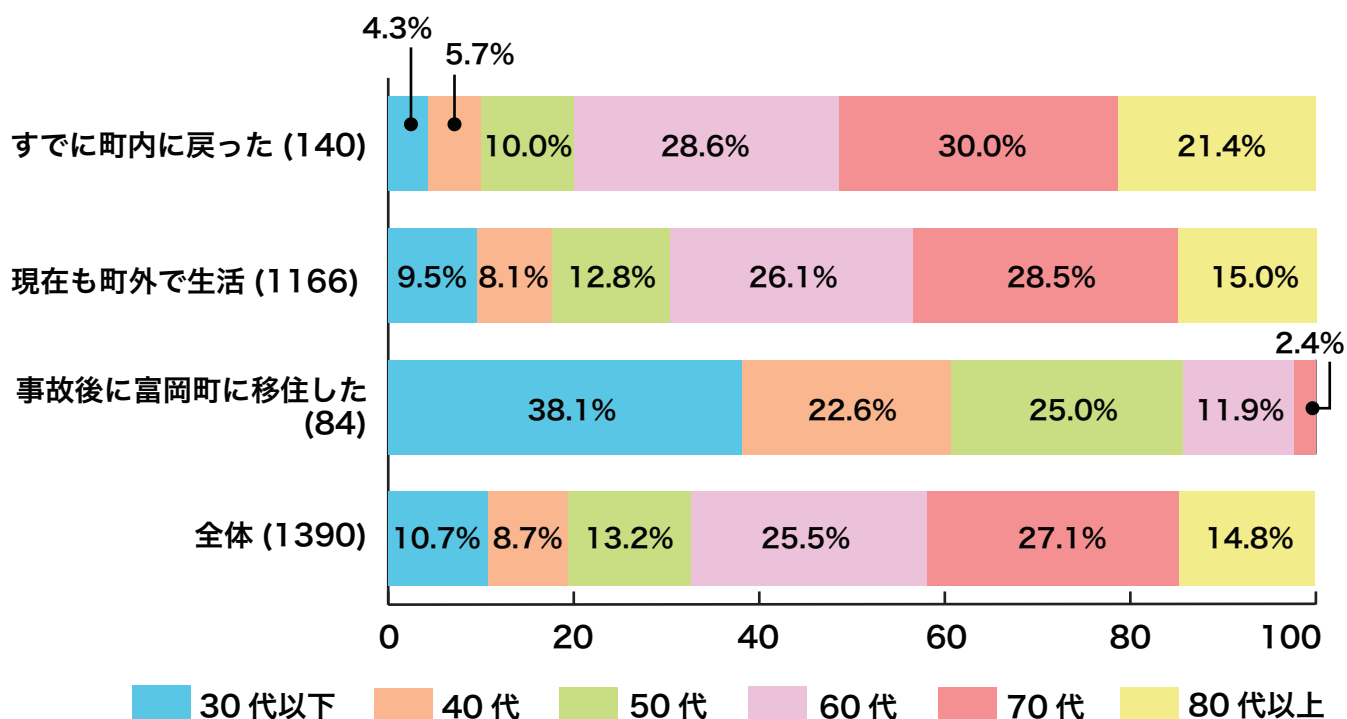


図 1-3 対象者の状況別に見た年齢



## 2 富岡町とのかかわり

帰還者

避難者

移住者

調査では、事故当時において富岡町民だった方に、現時点における富岡町とのかかわりを尋ねました。図 2-1 は家屋と土地の状況を尋ねた結果を示したものです。48.5%の方は富岡町内の家屋を解体したが、土地はまだ所有している状態であることが分かりました。事故当時のままの方は27.1%でした。

図 2-2 は富岡町の暮らしに関する喪失感について尋ねた結果です。80.0%の方が「平穏な生活を奪われた」と強く感じています。「昔の富岡町の安心感を感じられない」と回答した方は、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると64.8%にも上りました。多くの方が原発事故によって富岡町内で暮らしていた平穏な生活を奪われたと回答していることが分かります。

図 2-3 は原発事故からの生活の回復状況（主観的な復興感）を尋ねた結果です。「ほぼ回復した」と回答したのは10.0%に過ぎず、「ある程度回復した」と回答した31.5%を加えても4割程度の方しか生活状況が回復したと感じていませんでした。

図 2-1 家屋と土地の状況 (1266)

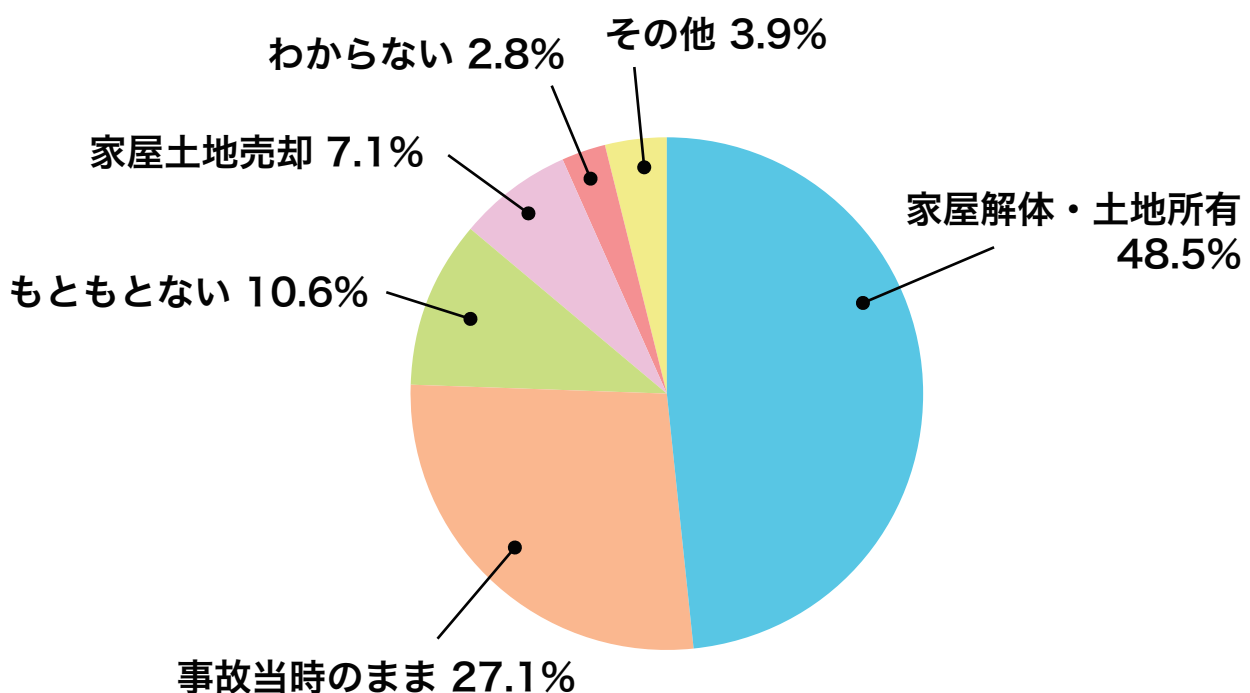


図 2-2 「ふるさと喪失」に関する意識調査結果

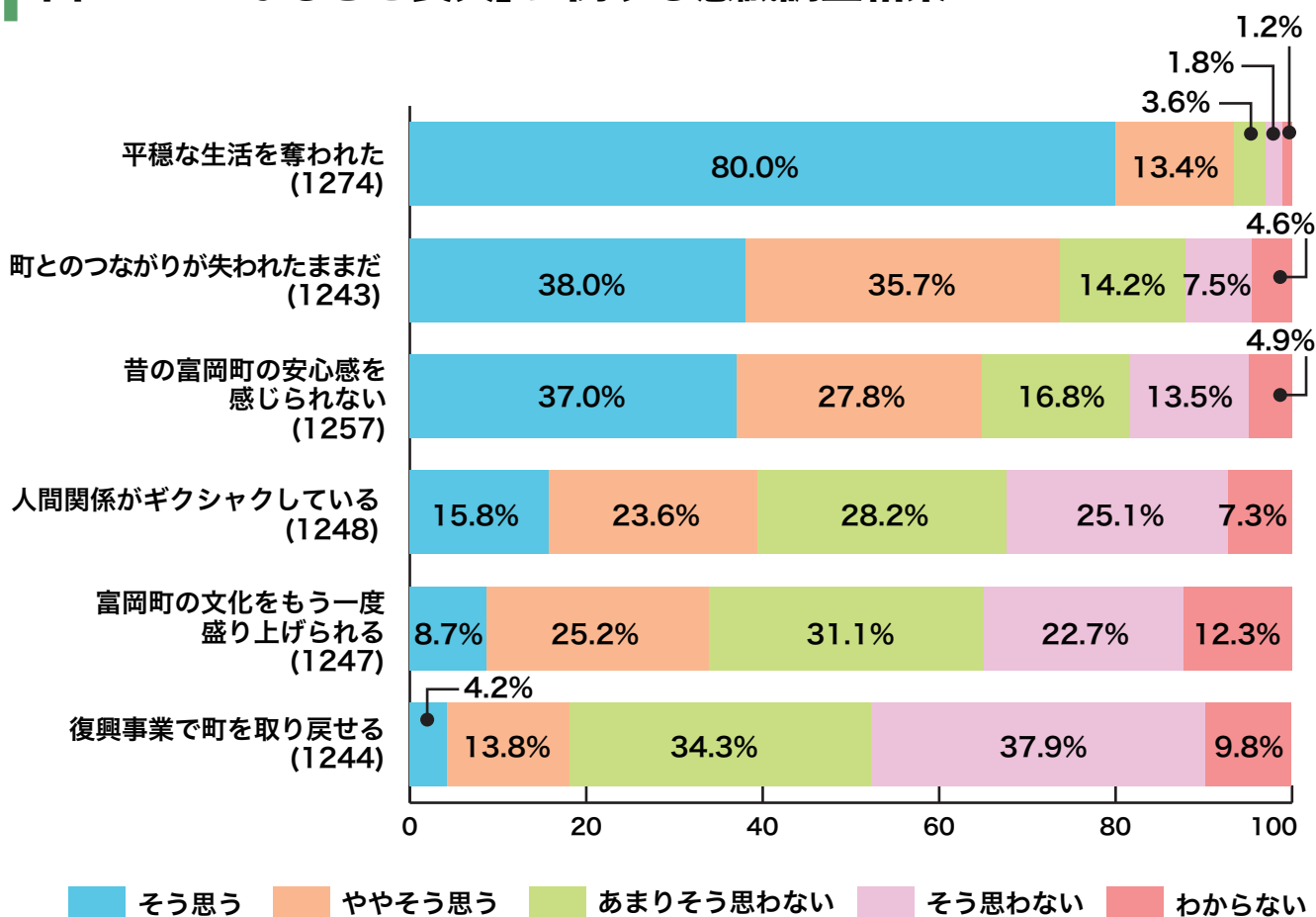
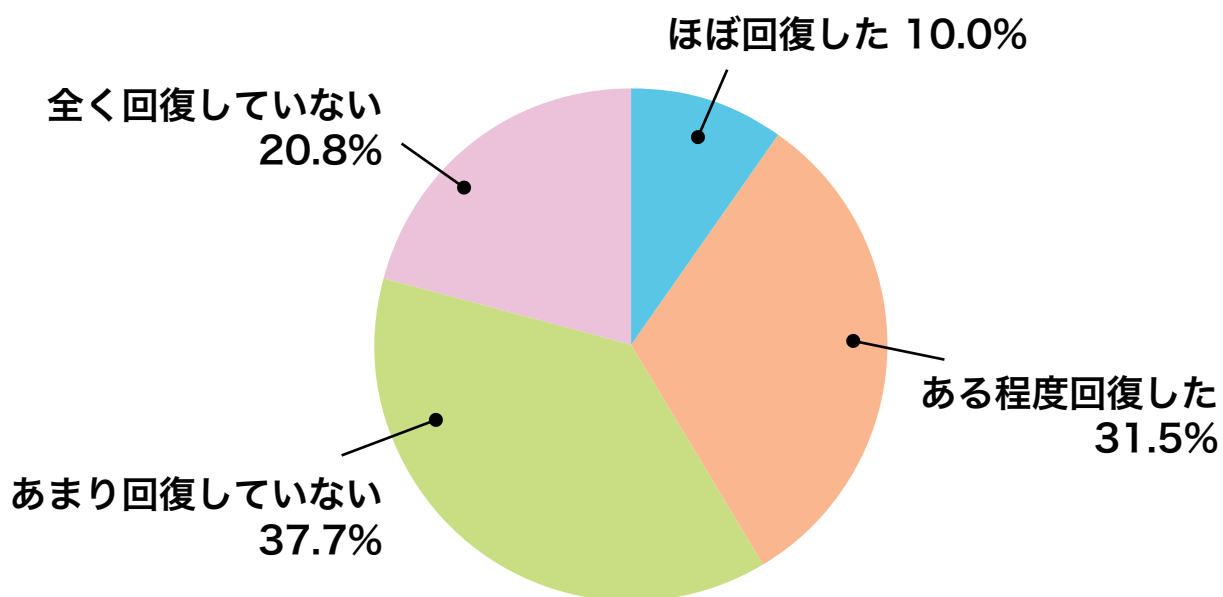


図 2-3 対象者の主観的な復興感 (1278)



# 3 避難生活の状況

帰還者

避難者

移住者

調査では、現在も避難されている方に対して、現状の避難生活に対する意識を尋ねました。

図 3-1 は、町外で生活している現状をどのように捉えているのかを尋ねた結果です。「避難継続中」「やや避難継続中」と回答した方が合わせて 39.9%、「避難先へ移住」「やや避難先へ移住」と回答した方が合わせて 51.2% でした。

図 3-2 は、今後における住民票の取り扱いを尋ねた結果を示したものです。移住先に住民票を移すことを検討しているのは 18.2% にとどまりました。48.2% の方は移すことは考えておらず、32.7% が迷っていることがわかりました。

図 3-3 は今後における帰町意向を示したものです。「必ず富岡町で生活する」と回答した方が 2.9% で、「条件が整えば富岡町で生活する」と回答した方が 16.0% でした。半数近くの 48.0% は「富岡町で生活するつもりはない」と考えていることがわかりました。

図 3-1 町外居住の認識 (1083)

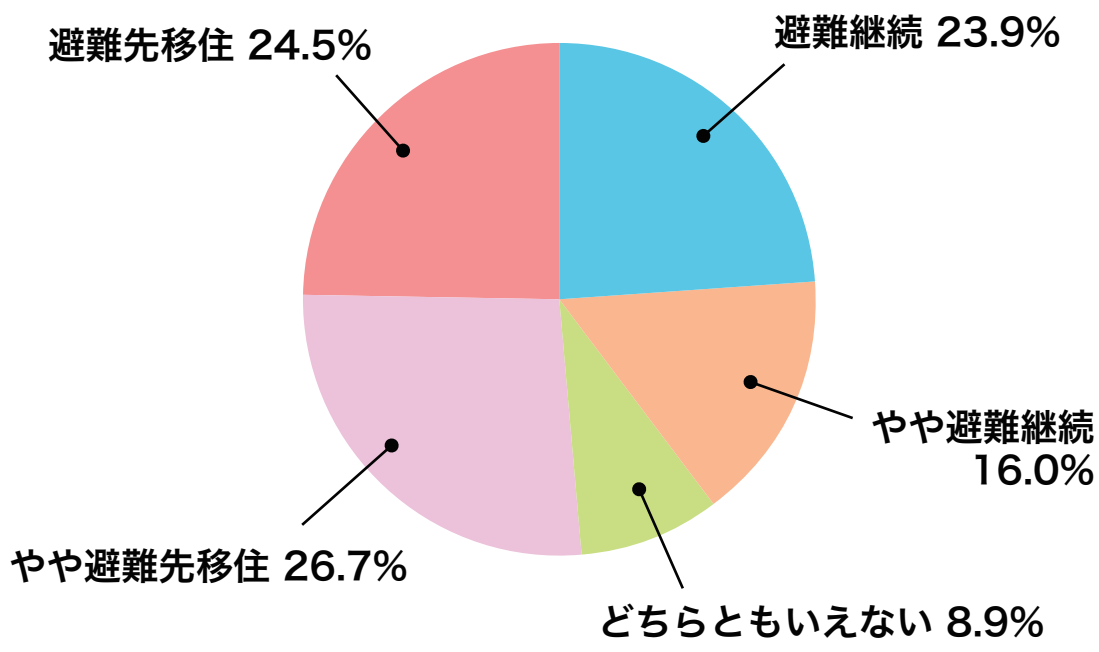


図 3-2 住民票の意向 (1075)

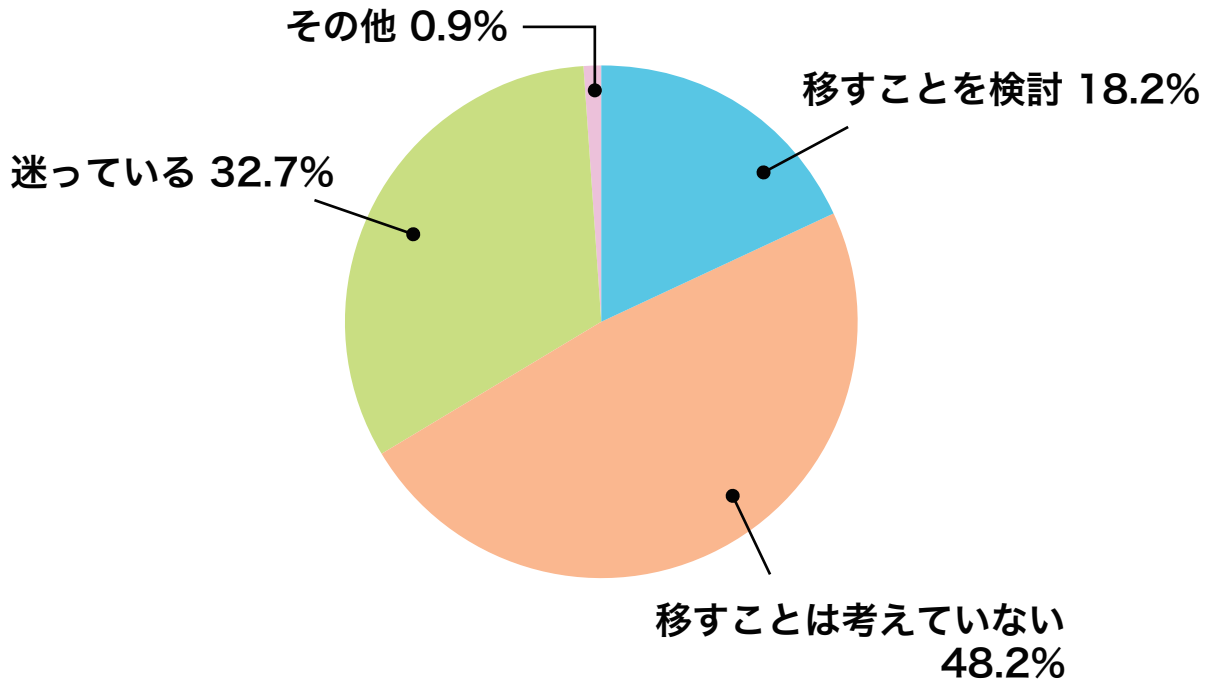
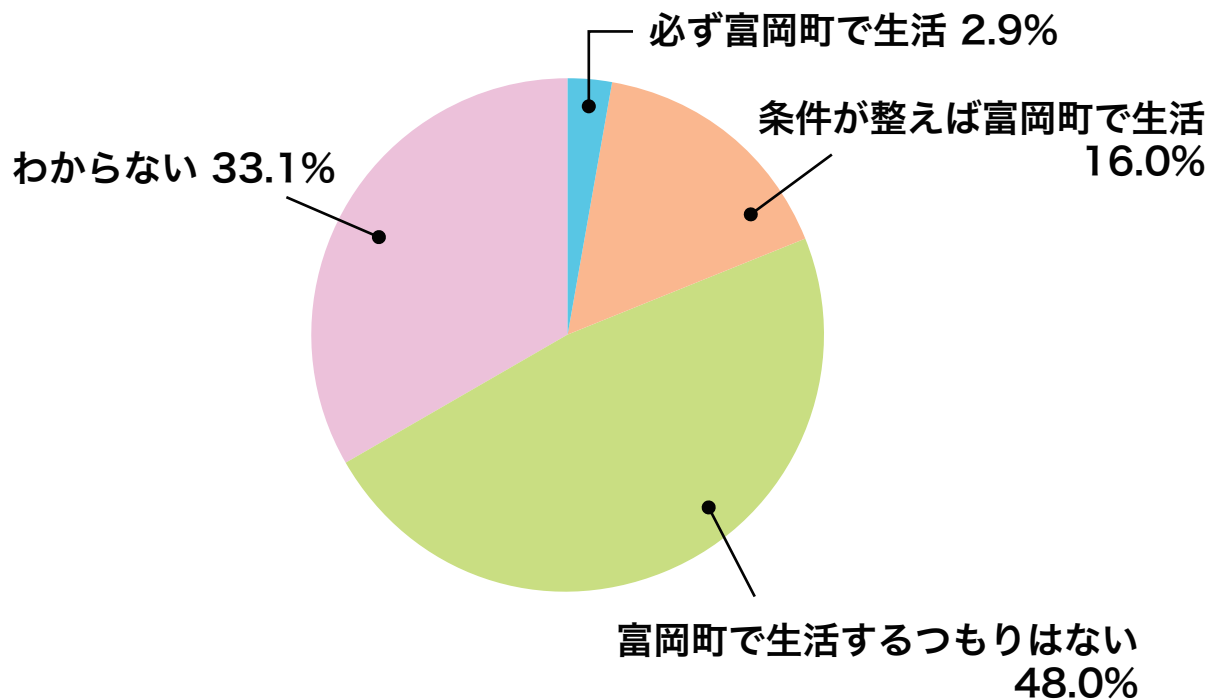


図 3-3 富岡町町内への帰町意向 (1089)



## 4 移住者の暮らし

帰還者

避難者

移住者

調査では、避難指示解除後に富岡町に転入された方に対しても質問をしています。図 4-1 は富岡町へ移住してきた理由を尋ねた結果です。「転勤」という回答が 37.9% と最も多く、「希望する仕事があった」の 29.9% が続きました。この結果から、富岡町に転入している人の多くは従事する仕事に関係しているということがわかります。

図 4-2 は富岡町内での生活満足度を尋ねた結果です。「満足」と回答した方が 10.4%、「やや満足」と回答した方が 24.1% で、両者を合わせると 34.5% でした。「やや不満」「不満」という回答は合わせて 65.5% で、多くの方は町内での生活に満足していないことがわかりました。

図 4-3 は富岡町で今後も生活するかどうか、永住意思を尋ねた結果です。「ずっと住み続ける」と回答した方が 18.2% でした。「5年以上は住む」と回答したのは 20.5%、「1～2年は住む」と回答した方が 25.0% でした。他方、「わからない・決めていない」と回答した方が 26.1% でした。

図 4-1 移住理由 (87)

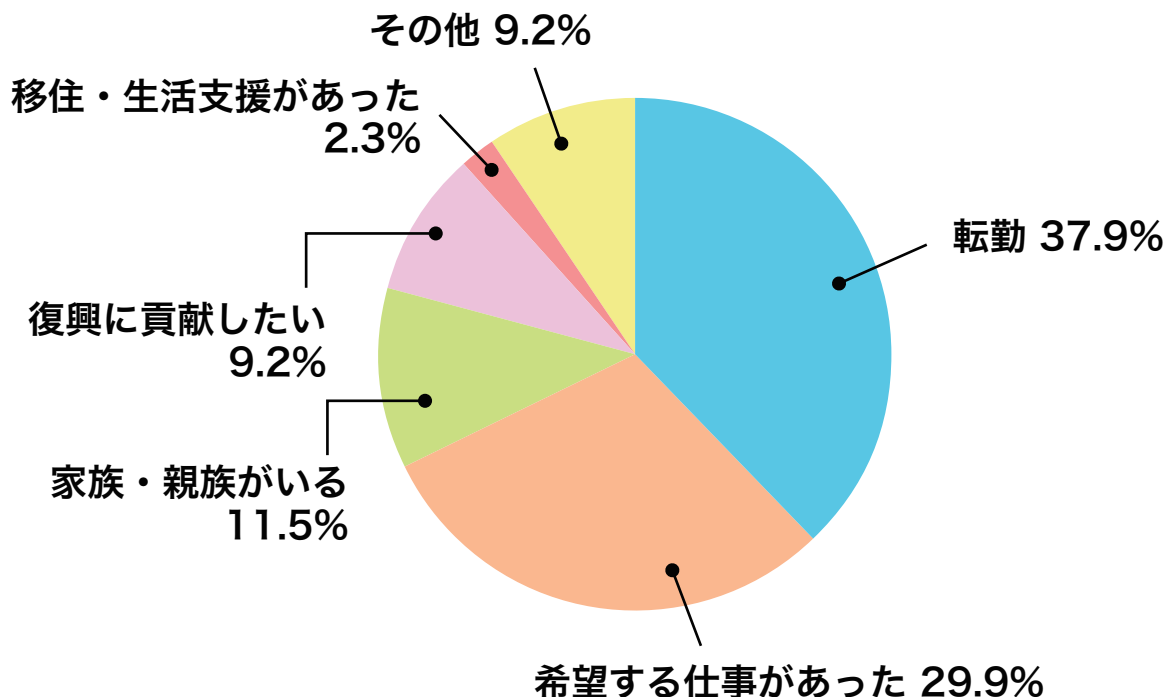




図 4-2 町内生活満足度 (87)

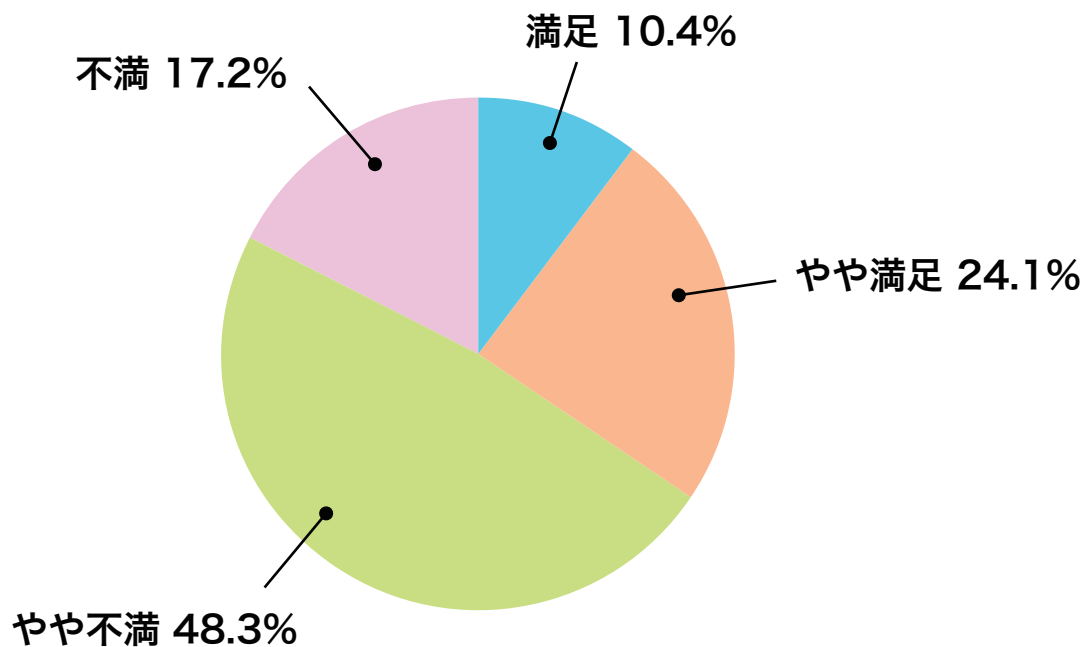
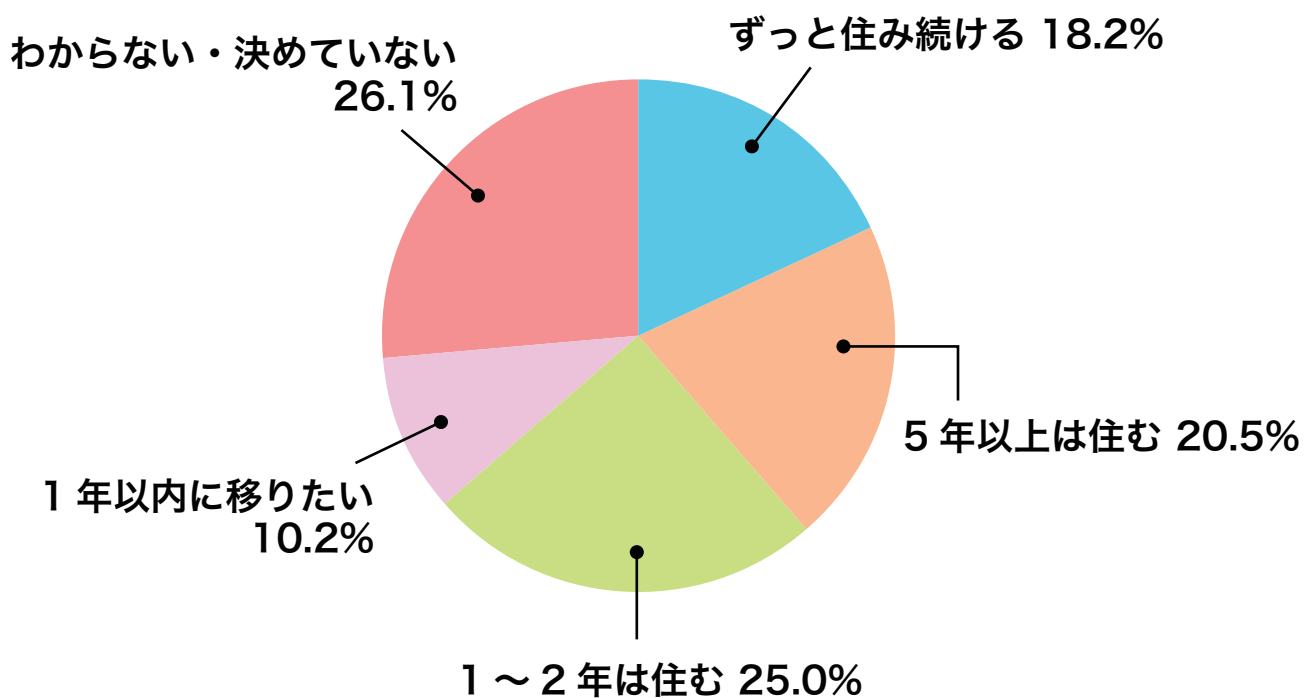


図 4-3 永住意思 (88)



# 5 復興状況に対する認識

帰還者

避難者

移住者

調査では、すべての方に現在の富岡町の復興状況について意見を伺いました。図 5-1 は各種復興事業への評価を尋ねた結果です。「とても評価」「やや評価」を合わせた値が一番高いのは除染事業で、57.6%の方が評価していました。次に評価が高いのが情報提供(43.8%)でした。他方、買い物環境(36.4%)や雇用環境(25.3%)の整備についてはあまり評価されていないことがわかりました。

図 5-2 は福島第一原発の廃炉に対する意識を尋ねたものです。廃炉は30～40年では終わらないとの意見に対し、「そう思う」「ややそう思う」と考える方は78.9%であることがわかりました。その他の項目についても、多くの方が廃炉作業について厳しく捉えていることがわかりました。

図 5-3 は、富岡町役場が今後力を入れるべきことを示した結果です。「町内生活環境整備」が42.3%と最も回答が多く、「避難者生活支援」(28.6%)が続きました。

図 5-1 復興事業への評価

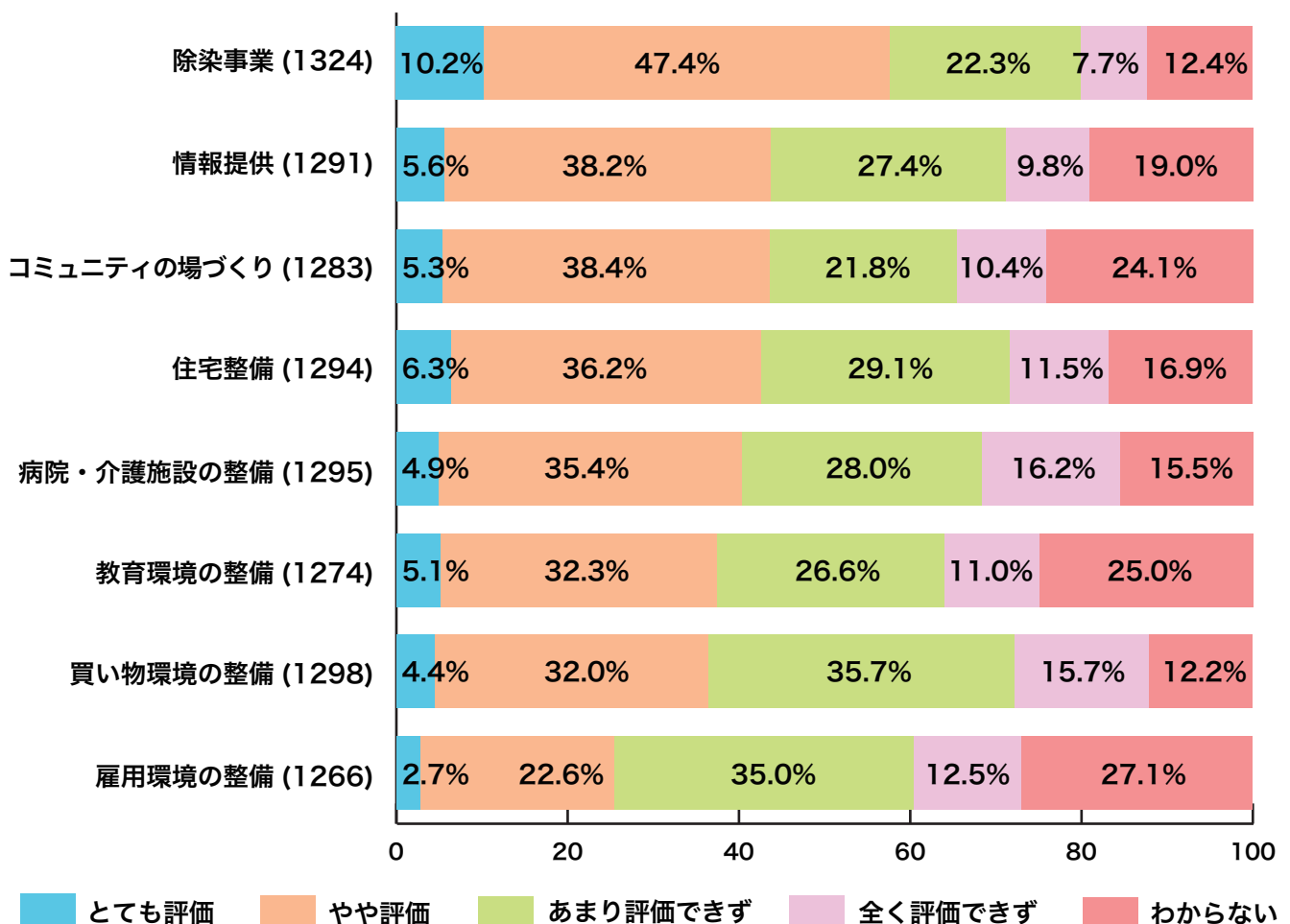


図 5-2 廃炉への認識

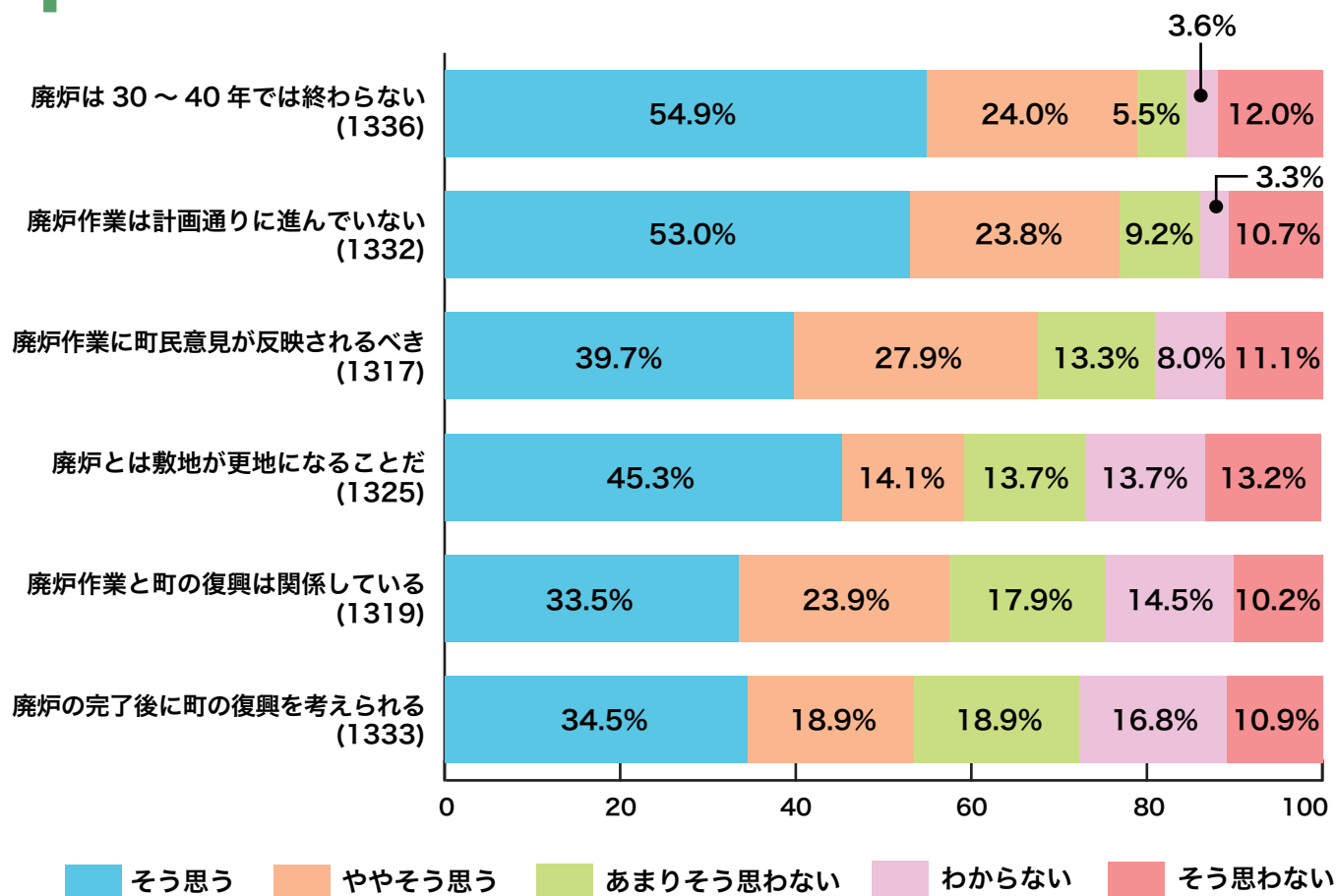
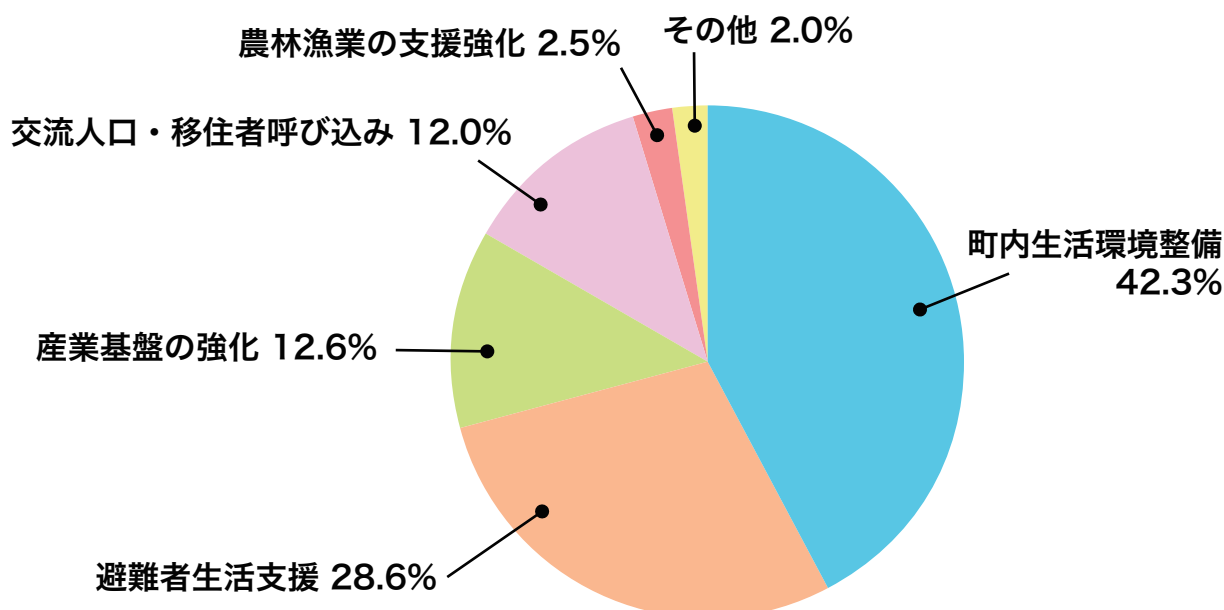


図 5-3 富岡町が力を入れるべきこと (1288)



# 集計結果を振り返って

---

調査からは、原発事故から12年が経過するなかでも、多くの富岡町民の生活再建が終わっていないように思われます。多くの町民が富岡町における平穏な暮らしを喪失したと感じており、生活を回復できたと回答した方が4割にとどまるなど、まだまだ生活を立て直している最中であると言えます。

他方で、富岡町に対する関わりをまだ維持していきたいという想いもくみ取ることができます。町内の家屋は解体しても土地を持ち続けていることや、4割の避難者が今も避難しているという感覚を持っていること、さらに住民票を持ち続けたいと考えていることから、そのように言えるのではないのでしょうか。富岡町とつながってきたいと感じる町民への支援策も求められています。

また、避難指示後に新しく富岡町に移住してきた人もいます。仕事をきっかけに転入された方が富岡町とどのような関わりをつくるのか、帰還者も含めたコミュニティづくりが大きな課題だと言えます。

富岡町における主要な復興事業は終わったものの、多くの町民は復興事業にあまり満足していないことがわかりました。特に買い物環境や雇用環境など、富岡町内における生活環境の整備への不満が高く、多くの町民がその改善を役場に期待しています。また、第一原発の廃炉については多くの町民が否定的に捉えており、役場には廃炉に向けた情報提供や東京電力への要望などが期待されているように思われます。

今後の富岡町におけるまちづくりに活用してもらうべく、調査結果をさらに分析していきたいと思えます。

---

詳細な調査結果については、2023年度中に作成する予定です。研究会のホームページにて公開する予定となっております。今回の調査に関する各種資料も含めて、ご覧いただければと思います。

- 自治体再建研究会  
<https://jichitai-saiken.jp/>

